

ページ	質問番号	内容
6～	問9	<p>男性の仕事・学校時間が長く仕事のある日には、10時間以上仕事をしている人が全体の46.2%となっている。(女性は19.8%)</p> <p>一方で、女性の家事時間が長く、仕事や学校のある日にも、3時間以上家事をしている人が全体の48.2%となっている。(男性は4.9%)</p> <p>→男性は長時間労働の方が多く、女性の家事育児時間が長くなる傾向がある。</p>
8	問10	<p>仕事をしていない理由を、家事や子育てのためと回答した女性は34.8%となっている。(男性は3.1%)</p> <p>また、看護や介護のためと回答した女性は7%となっている。(男性は1.6%)</p> <p>→家事や子育てが「仕事ができない理由になる」のは、圧倒的に女性が多い。</p>
9	問11-1	<p>仕事をしていないが、就業の意思がある方で、仕事に就く上で問題になることを「介護や子育てがある」と回答した女性は、37.0%を占めている。(男性は0%)</p> <p>→働き続けることや、就職を希望する女性が、働ける体制づくりが必要。</p>
10	問12	<p>女性が仕事を持つことについて、男女ともに63.7%が、仕事を持ち、結婚や出産後も仕事を続ける方が良いと回答している。</p> <p>→結婚や出産後も仕事を続ける事を理想としながら、現実とのズレがある。</p>
11～	問14	<p>家庭での役割分担としては、基本的に半数以上の方が男女が同じ程度分担することが望ましいと回答している。(掃除74.4%、子どもの世話73.3%など)</p> <p>しかし、現実的には女性の負担が多い現状である。(掃除を主に女性が担う43.5%、主に男性が担う1.7%。子どもの世話を主に女性が担う25.6%、主に男性が担う0.1%など)</p> <p>生活費の確保については、男性自身が男性が担うべきと回答している率が高く、現実には50.7%の男性が主に担っている。(女性は2.1%)</p> <p>→性別による固定的役割分担意識による、家庭内での役割分担が見られる。</p>
15	問15	<p>男女が共同で家事育児等に積極的に参加していくためには、家族間のコミュニケーションをはかるとの回答が男女とも一番多かった。(74.4%)</p> <p>次いで、男女それぞれの抵抗感をなくす必要(ジェンダー平等)について選んだ回答が多かった。(67.1%)</p> <p>また、仕事以外の時間の拡大をはかる、労働時間の短縮や休暇制度の普及～は、半数以上の方(53.1%)が選択している。</p> <p>→家族内での支え合いについてや、ジェンダー平等の啓発促進、ワークライフバランスといった内容について、選択が多かった。</p>
16～	問16・問17	<p>DVの認識についての設問では、選択肢すべてで半数以上の方がどんな場合でも暴力にあたると思うと回答しているが、大声でどなる(男性57%、女性70.1%)、細かく監視する(男性57.8%、女性71.4%)、については男女の意識の差が見られた。</p> <p>DVの経験の有無については、問16でDVに該当する行為を質問し、説明した上で問17で被害経験の有無を回答してもらったことで、前回調査時と比較してDVをされたことがあると回答する率が増加した。(男性1.7%→今回9.8%、女性8.3%→今回23.2%)</p> <p>→DVに該当する行為について質問した上で質問することで、DVの被害経験について「されたことがある」と回答した方が増えた。</p>

18	問18	<p>ハラスメント等については、女性の被害者が多い傾向が読み取れた。また、全体の5%に満たない数の方が選択した選択肢が4項目あった。(ストーカー行為4.8%、マタニティ・ハラスメント4.2%、交際や性的行為強要3.0%、パタニティ・ハラスメント1.7%)</p> <p>→多様なハラスメントへの取り組みが必要である。</p>
19	問18-1	<p>DV・ハラスメントの相談状況については、被害者の41.7%が相談できなかったと回答している。</p> <p>→被害者が相談に踏み出せるような支援が必要である。</p>
21	問19	<p>固定的役割分担意識を問う質問については、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、賛成が3.1%、どちらかといえば賛成が30.6%であった。</p> <p>→今も固定的役割分担意識が根強く存在していることが読み取れる。</p>
22	問20	<p>男性が妻や子どもを養うことについて、女性12.1%に対して、男性の29.5%が男性の責任と思うと答えており、妻子を養うべきだというのは、傾向として男性自身が強く持っている価値観であることが読み取れる。</p> <p>また、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方が良いかという問いに対して、女性の4.4%がそう思う、23.7%がどちらかと言えばそう思うと回答している。</p> <p>一方、男性の14.8%がそう思うと回答し、43.3%がどちらかと言えばそう思うと回答しており、この2つの回答の合計が58.1%であった。</p> <p>→「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」というジェンダー意識を引き継ぐ育て方がよいという考え方が根強く残っており、また、それは男性の半分以上が持っている考え方であることが読み取れた。</p>
23	問21	<p>男女の地位の平等観については、学校教育において男女平等が進んでいることが読み取れ(平等である71.9%)、一方で政治(男性が非常に優遇されている38.2%)、社会通念やしきたり(男性が非常に優遇されている24.5%)の面では進んでいないことが読み取れる。また、全体として男性が優遇されているという回答が多い一方で、女性が優遇されているという回答は非常に少ない結果となった。</p> <p>→平等であると考える人の割合を増やすための取り組みが必要である。</p>
25	問22 問22-1	<p>性的マイノリティにとって生活しづらい社会であると81.3%が回答している。</p> <p>→カミングアウト後に態度が変化したり、周りの理解を得られないという回答が67.5%あるなど、周りの人の反応が生活しづらい要因がある。</p>
26	問23 問23-1	<p>自身の性別によって生きづらさを感じる女性の割合(13.9%)は、男性(6.7%)の倍になっている。</p> <p>生きづらさの理由として、女性は仕事と家庭の両立(63.9%)や家事育児ができて当たり前と言われること(55.4%)に悩んでいる方が多く、男性は仕事の重責や仕事できて当たり前と言われること(46.2%)や、男性はこうあるべきという固定的性別役割分担意識を理由にしてバカにされたりからかわれたりすること(34.6%)に悩んでいる方が多い。</p> <p>→性別を原因として生きづらさを感じる方を減らす取り組みが必要である。</p>

27	問24	<p>災害対応のために必要なことは、日頃から性別や年齢にかかわらず多様な人が協力しての地域のことを進めると答えた方が一番多く、64.9%であった。次いで、多様な人が多く参加する防災訓練の実施が47.1%であった。</p> <p>また、防災に関する会議の女性委員を増やす(40.3%)、女性リーダーの育成(26.1%)と、防災に関わる女性人材の育成についても多く選択されていた。</p> <p>→地域活動や地域防災に関する必要性について、多くの方が理解している状況である事がわかった。有事の際に性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応ができるための取り組みについて検討が必要である。</p>
28	問25	<p>男女共同参画行動社会実現のために行政が力を入れるべきこととして、子育て中や介護中であっても仕事を続けられるような支援についてが最も多く選択(65.8%)され、再就職の支援(55.9%)についても半数以上の方が選択しており、女性活躍施策へのニーズが読み取れる。</p> <p>また、保育サービス(57.9%)や介護サービス(50.9%)など、家事育児等、家庭内の負担を減らせるような、両立促進につながる取り組みについても多くのニーズがあった。</p> <p>→ニーズ結果を踏まえ、計画を策定する必要がある。</p>